

**令和7年度「人権を確かめあうアンケート」
結果資料**

奈良県教育委員会

【実施目的】

- 県内の児童生徒が「いじめ」の被害者にも加害者にもなることのないよう、また、教職員等の言動による「ハラスメント」が起きることのないよう、お互いに人権を確かめあうとともに、学校環境を点検する機会とする。
- 実施結果を、人権尊重の視点に立った学校づくりの推進に役立てる。

【実施方法等】

- 実施対象 県内の公立学校（小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校）の児童生徒
- 実施方法 Google Workspace for Education のフォームを活用して、各学校にて実施
- 実施期間 「人権を確かめあう日」である令和7年12月11日（木）を基準日として12月末までに実施
- 実施状況 回答数等
 - <回答学校数合計> 318校
 - 小学校 179校
 - 中学校 91校
 - 義務教育学校 9校
 - 高等学校 33校
 - 特別支援学校 6校
 - <児童・生徒数合計> 88,396人
 - 小学校（義務教育学校前期・特別支援学校小学部を含む） 48,393人
 - 中学校（義務教育学校後期・特別支援学校中学部を含む） 23,384人
 - 高等学校（特別支援学校高等部を含む） 16,619人

【資料の項目】

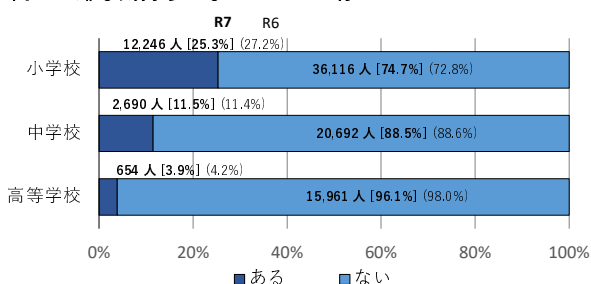
- (1) 嫌な気持ちになったこと
- (2) 相手を嫌な気持ちにさせたこと
- (3) 教職員からの言動に関すること
- (4) 一人一人のちがいを認め合うこと

※結果の表示について

「今年度の回答者数」「今年度の割合」「前年度の割合」を並べて表示
（「今年度の割合」を [] 内に、「前年度の割合」を () 内に示す。）

(1) 嫌な気持ちになったこと

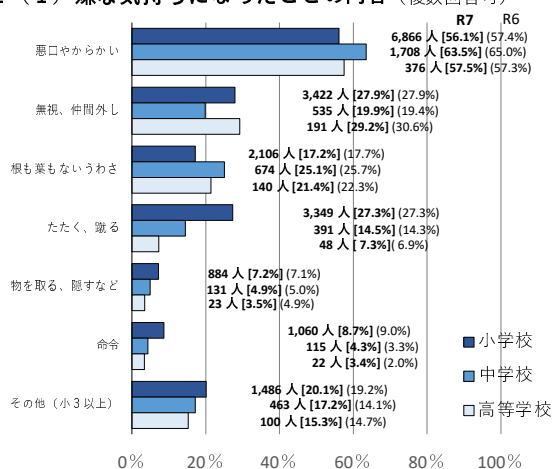
問1 嫌な気持ちになったことの有無



学校段階が進むにつれ、「嫌な気持ちになったことがある」と回答した児童生徒の割合は下がる傾向にあった。

(問1で「ある」と回答した児童生徒について)

問2 (1) 嫌な気持ちになったことの内容 (複数回答可)



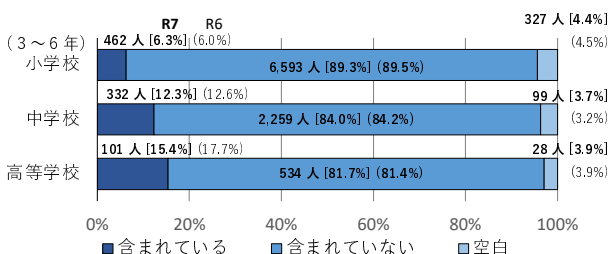
「その他」の記述例

- ・オンラインゲームで、チャットに悪口を打たれた (小)
- ・授業中に関係のない話をしたり、不快な音を立てられたりして不愉快だった。(中)
- ・自分にとってあまり言ってほしくないことを何気なく話されたことがある (高)

全校種で、嫌な気持ちになったことの内容として「悪口やからかい」が最も多い他、「根も葉もないうわさ」など言葉による被害が大きな要因となっている。

(問1で「ある」と回答した児童生徒について)

問2 (2) ネット上でされたことが含まれているか



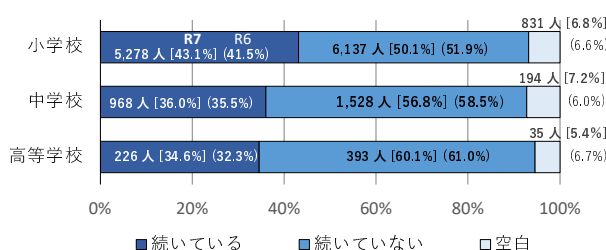
【参考】問2 (1) より

小学校1・2年生における、「ネットを使って、悪口を言われたり、仲間はずれにされたりした」と回答した人数と割合 230人 [4.7%] (4.4%)

ネット上で嫌な気持ちになった割合が、中・高で10%を超えている。
 昨年度比 (小学校+0.3% 中学校▲0.3% 高等学校▲2.3%)

(問1で「ある」と回答した児童生徒について)

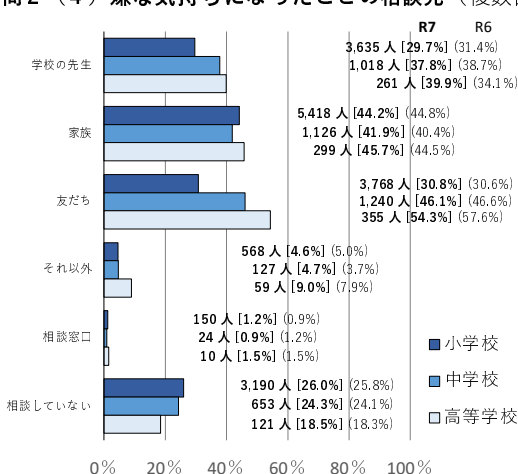
問2 (3) 嫌な気持ちになったことの継続状況



小学校においては約4割の児童が、また中学校・高等学校においては3割を超える生徒が嫌な気持ちになったことが解消されていなかった。(回答時点)

(問1で「ある」と回答した児童生徒について)

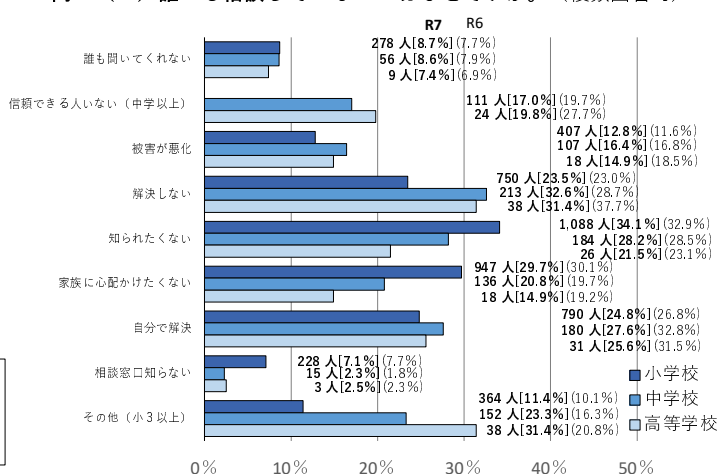
問2 (4) 嫌な気持ちになったことの相談先 (複数回答可)



相談先として、小学校は「家族」、中学校・高等学校は「友だち」の回答が最も多かった。また、全校種で約2割の児童生徒が「相談していない」と回答した。

(問2 (4)で「相談していない」と回答した児童生徒について)

問2 (5) 誰にも相談していないのはなぜですか。(複数回答可)



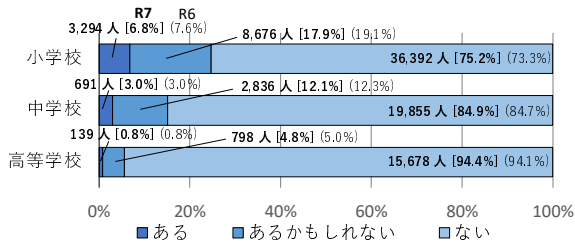
「その他」の記述例

- ・先生に言ったら大事になりそうで怖いし、友達にも迷惑をかけたくない (小)
- ・ネット上のことだから (中)
- ・AIに相談したから (中)
- ・正直相談しても意味ないしやるだけ無駄だとしか思っていないから (高)

小学校は「他人に知られたい」「家族に心配かけたくない」が多く、中学校・高等学校では「相談しても解決しない」「自分で解決しようと思う」が多かった。

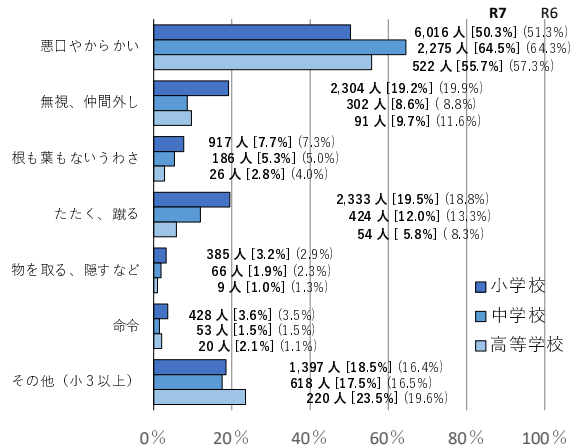
(2) 相手を嫌な気持ちにさせたこと

問3 相手を嫌な気持ちにさせたことの有無



学校段階が進むにつれ、「嫌な気持ちにさせたことがある」「あるかもしれない」と回答した児童生徒の割合は下がる傾向にあった。

問4 (1) 嫌な気持ちにさせたことの内容 (複数回答可)

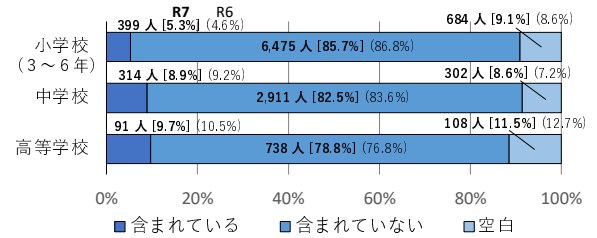


「その他」の記述例

- 相手の写真をいじった。(小) ・変なあだ名をつけてしまった(小)
- 相手に命令してしまった(小) ・指示や指摘の仕方が上から目線だった(中)
- 友達が好きなお店の名前を勝手に言ってしまった(中) ・対戦ゲームなどで煽ってしまった(中) ・相手がいないところで辛辣なことを言ってしまった(高)
- 疲れていたときに話しかけられて強い口調になってしまった(高) 等

全校種で「悪口やからかい」が最も多く、言葉による加害が大きき要因となっている。

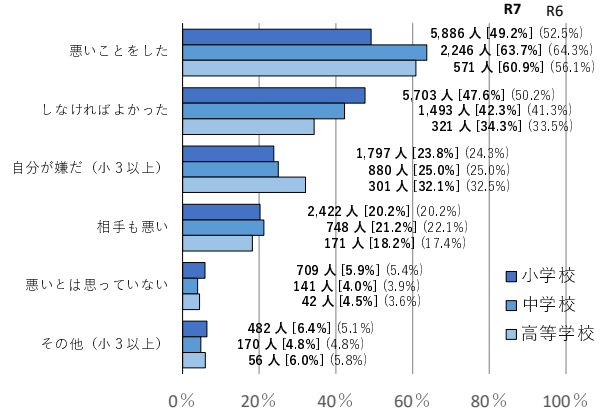
問4 (2) ネット上でしたことが含まれているか



【参考】問4 (1) より

小学校1・2年生における、「ネットを使って、悪口を言ったり、仲間はずれにした」と回答した人数と割合 121人 [2.7%] (2.6%)

問4 (3) 嫌な気持ちにさせたことに対する気持ち (複数回答可)



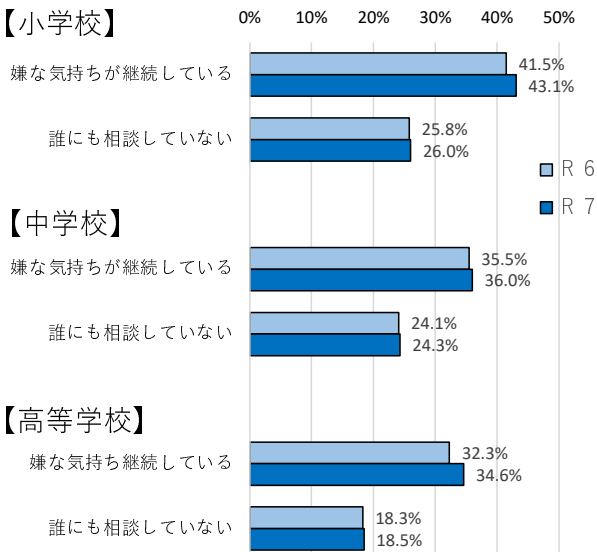
「その他」の記述例

- 私は直接その子に謝ったけれど、一緒に悪口を言っていた子とどう接すればいいのかわからない(小) ・メールでも、あやまったけれど、心のもやもやがおちつかない(小)
- SNSの使い方が間違っていたと思うし、これからは絶対しない(中)
- 言葉通りに受け取らず、もう少し状況をよく見てみようと思う(高) 等

全校種で反省や後悔の回答が多い中、嫌な気持ちになったことが解消されていない割合が増加している(問2(3))。また約2割の児童生徒が「相手も悪い」と回答した。

<経年比較>

嫌な気持ちになったことの児童生徒の継続状況と相談先

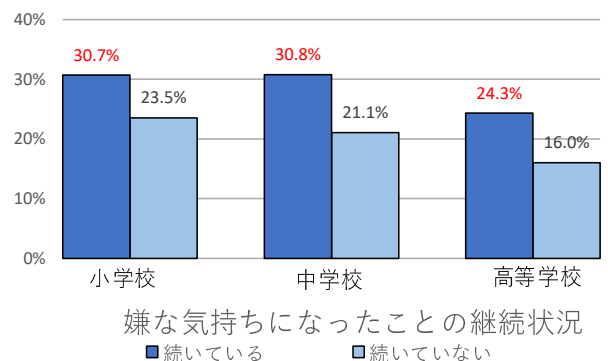


<クロス集計1>

「嫌な気持ちになったことの継続状況」と「嫌な気持ちになったことの相談先」の関係 (問2(3)) × (問2(4))

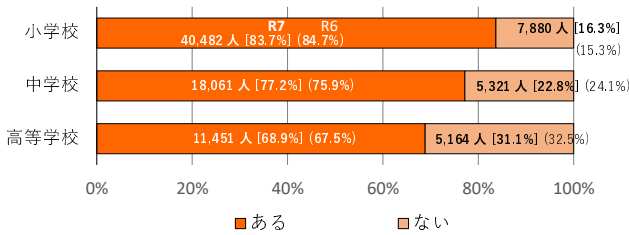
嫌な気持ちが続いている児童生徒は、誰にも相談していない割合が高い。

○「嫌な気持ちになったことを、誰にも相談していない」を選択した場合の「嫌な気持ちになったことの継続状況」



(3) 教職員からの言動に関すること

問5 うれしい気持ちになったことの有無



(問5で「ある」と回答した児童生徒について)

問6 (1) うれしい気持ちになったことの内容 (複数回答可)

学校種別		R7	R6
小学校	1 楽しく、分かりやすい授業	26,329人	65.0%
	2 がんばったことを認めてくれた	19,616人	48.5%
	3 困っているとき、助けてくれた	16,814人	41.5%
	4 悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	12,508人	30.9%
中学校	1 楽しく、分かりやすい授業	11,607人	64.3%
	2 がんばったことを認めてくれた	8,008人	44.3%
	3 困っているとき、助けてくれた	6,153人	34.1%
	4 悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	5,784人	32.0%
高等学校	1 楽しく、分かりやすい授業	6,256人	54.6%
	2 がんばったことを認めてくれた	4,162人	36.3%
	3 悩みを聞いたり、相談に乗ってくれた	3,427人	29.9%
	4 困っているとき、助けてくれた	3,153人	27.5%

「その他」の記述例

・いつも、だれかのいいところをいってくれること(小) ・「まちがってもだいじょぶ」と言ってくれた(小) ・部活動で、できなかったことをできるようになるまで教えてくれた(中) ・いじめのことにに関して話し合いをし、問題を解決しようとしてくれたこと(中) ・進路相談に真剣に向き合ってくれた(高)
 ・提出したプリントに「一日に一日分、できることを積み重ねていきましょう。まだまだできることはあります。」と書いてくれて勇気が出た(高) 等

(問5で「ない」と回答した児童生徒について)

問6 (2) 教職員にしてほしいことの内容 (複数回答可)

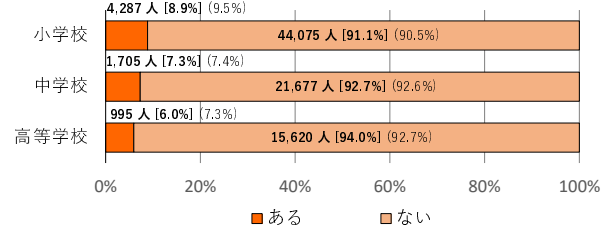
学校種別		R7	R6
小学校	1 楽しく、分かりやすい授業	2,742人	34.8%
	2 誰に対しても同じように接してほしい	1,638人	30.8%
	3 がんばったことを認めてほしい	1,444人	18.3%
	4 納得いくまで話してほしい	1,399人	17.8%
中学校	1 楽しく、分かりやすい授業	1,981人	37.2%
	2 誰に対しても同じように接してほしい	1,508人	28.3%
	3 がんばったことを認めてほしい	703人	14.9%
	4 納得いくまで話してほしい	830人	13.2%
高等学校	1 楽しく、分かりやすい授業	1,654人	32.0%
	2 誰に対しても同じように接してほしい	833人	16.1%
	3 がんばったことを認めてほしい	575人	11.1%
	4 意見や考えを尊重してほしい	477人	9.2%

「その他」の記述例

・勝手なことをしている人にもっと強く怒ってほしい(小) ・頑張っているところをちゃんと見てほしい(小) ・みんなと同じ扱いをしてほしい(中) ・授業を邪魔したりする人をしっかりと叱ってほしい(中) ・校則など、先生の個人の見解でなく、統一した基準で指導してほしい(高) ・生徒の話を聞いて欲しい(高) 等

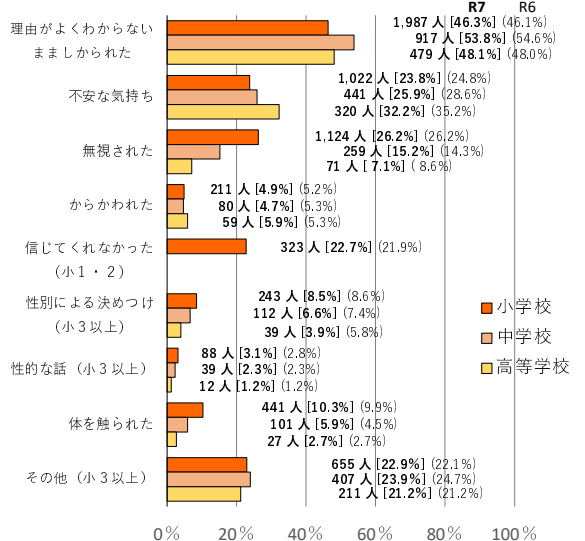
中学校・高等学校で、うれしい気持ちになった割合が増加。うれしい気持ちになった内容と教職員にしてほしいこといずれについても、「楽しく、わかりやすい授業」が最も多かった。

問7 嫌な気持ちになったことの有無



(問7で「ある」と回答した児童生徒について)

問8 (1) 嫌な気持ちになったことの内容 (複数回答可)



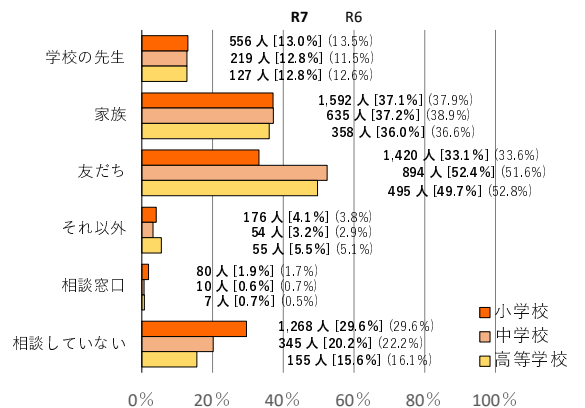
「その他」の記述例

・練習しているのに遊んでいると決めつけられた(小) ・悪いことをしていないのにけんかは両方に原因があるとされた(小) ・人によって態度を変えたり、一部の人の意見だけを尊重する(中) ・先生の都合に合わせてられなかったとき無視されたり冷たい視線を向けられた(中) ・部活中に高圧的でパワハラじみた事を言われた(高) ・挨拶を無視された(高) 等

全校種で、嫌な気持ちになった割合が減少した。嫌な気持ちになった内容は、全校種で「理由がよくわからないまま、しかられた」が最も多かった。

(問7で「ある」と回答した児童生徒について)

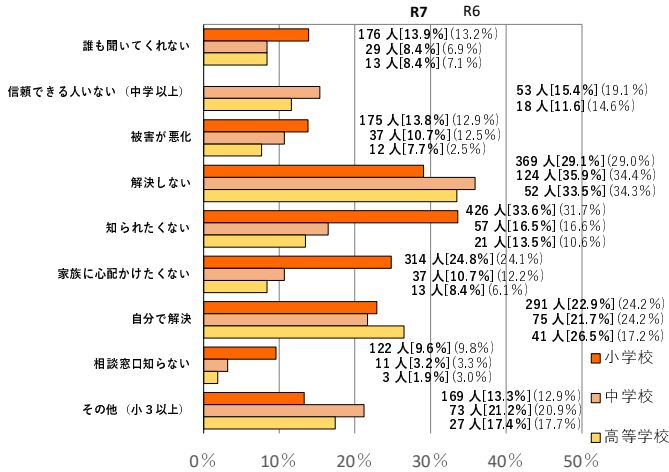
問8 (2) 嫌な気持ちになったことの内容 (複数回答可)



小学校では「家族」、中学校・高等学校では「友だち」が最も多く、「学校の先生」に相談する割合は約1割であった。また、約2～3割が「相談していない」と回答した。

(問8(2)で「相談していない」と回答した児童生徒について)

問8(3) 誰にも相談していないのはなぜですか。(複数回答可)



小学校は特に他校種に比べ「他人に知られたくない」「家族に心配をかけたくない」の割合が高く、中学校・高等学校では「相談しても解決しない」の割合が高かった。

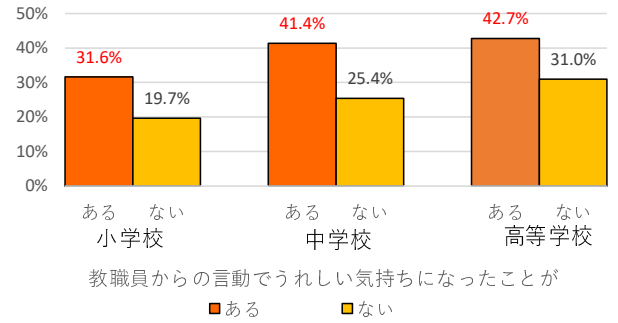
<クロス集計2>

「嫌な気持ちの相談先」と「教職員からの言動」の関係

(問2(4)) × (問5)

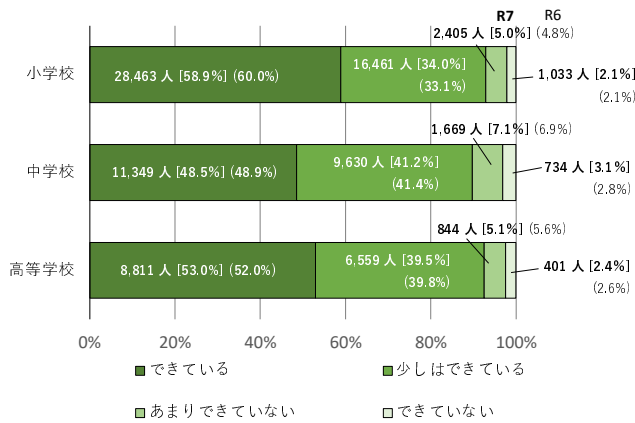
教職員からの言動で、うれしい気持ちになったことのある児童生徒は、嫌な気持ちを学校の先生に相談した割合が高い。

○「嫌な気持ちを学校の先生に相談した」児童生徒の割合



(4) 一人一人のちがいを認め合うこと

問9(1) 周りの人たちは、ちがいを認め合っているか

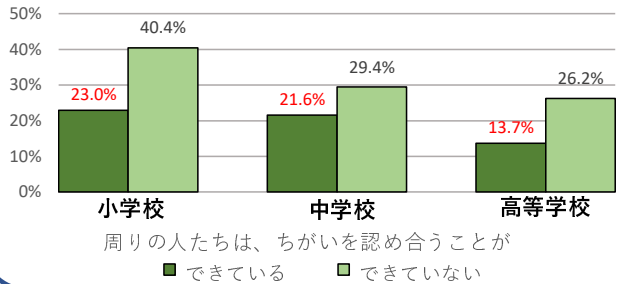


<クロス集計3>

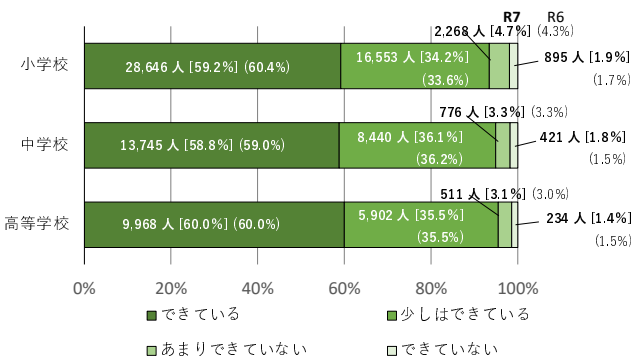
「知られたくないから相談しない」と「周りの人たちのちがいに対する考え」の関係 (問2(5)) × (問9(1))

「周りの人たちは、ちがいを認め合っている」と感じている児童生徒は、「知られたくないから相談しない」と考える割合が低かった。

○「知られたくないから相談していない」を選択した割合



問9(2) 自分は、ちがいを認めることができるか



全校種で約9割の児童生徒が、周りの人たちに対して、自分自身に対して、ちがいを認めることが「できている」もしくは「少しはできている」と回答した。

<クロス集計4>

「学校の先生がしてくれてうれしかった内容/してほしい内容」と「自分自身のちがいに対する考え」の関係

(問6(1)) × (問6(2)) × (問9(2))

全校種で、教職員が「同じように接してくれた」ことを経験した児童生徒は、自分自身はちがいを認めることができていると思う割合が6割を越えている。

○「自分は、ちがいを認めることができる」を選択した割合

